

令和5年度第1回総合教育会議 次第

日時：令和5年8月17日(木)

午後4時～

場所：福社会館2階201号室

1 議 題

(1) 校内フリースクールF組の成果を踏まえた、小学校における未然防止策について

資料1

(2) 岡崎市立中学校地域ブロック部活動の進め方「3段階プラン」(岡崎モデル)について

資料2

2 その他

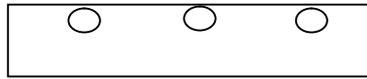
(1) 小中学校への電子黒板の導入の現状と今後について 資料3

(2) スクールソーシャルワーカーの中学校区での拠点校型配置について 資料4

令和5年度第1回総合教育会議 配席図

出入口

事務局



社会教育課長 施設課長



事務局



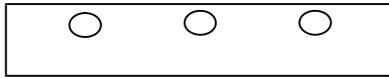
スポーツ
文化振興課長 振興課長



<オブザーバー>

教育相談

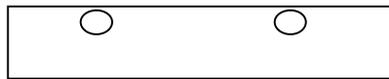
センター所長 学校指導課長 教育政策課長



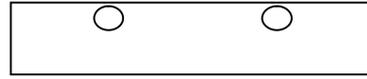
企画課長 財政課長



教育監 教育部長



総合政策部長 財務部長



傍聴席

千野 委員



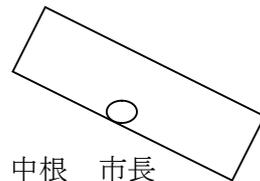
岡田 委員

小出 委員

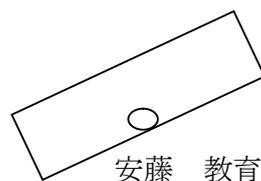


上原 委員

報道陣



中根 市長



安藤 教育長

校内フリースクールF組の成果を踏まえた、小学校における未然防止策について

1 F組の現状

- 校内フリースクール設置校数の推移
令和2年度：3校 令和3年度：8校 令和4年度：14校 令和5年度：20校
※本年度全中学校設置完了

2 F組設置の成果

- 初期対応、自立支援**における成果
 - ・現在、市内全中学校のF組を活用している生徒は、約300名。
 - ・生徒一人一人により状況は違うものの、F組があることで学校に登校できる生徒がいる。
 - ・F組に通う生徒にとって確かな「居場所」ができ、安心して楽しく学校生活を送ることができる生徒が増えた。
 - ・学校の核となる指導力のある教員を担任とし、加えてフリースクール支援員の常駐とすることで、「心理的安全性」が生まれ、目標をもって生き生きと学校生活を送る生徒が増えた。
 - ・卒業後、次のステージで活躍する生徒の姿があり、社会的自立に向けて重要な学級となっている。
- 未然防止**における成果
 - ・F組の理念が職員全体へ浸透し、学校全体で温かく子供を見守れるようになってきている。
 - ・生徒の変容につながる支援のあり方を間近で見ることによる教員の意識改革
→通常学級での支援のあり方の変化 →「新たな一人を生まない」学校・学級
- 長期欠席者の新規発生率の抑制**
 - ・全国的に見て、長期欠席者が急増している中、本市は増加率の抑制が図られている。
※継続数（前年度も長期欠席者）は一定数いることから、新規長期欠席者の抑制が、全体の長期欠席者の抑制へとつながる。

3 小学校への長期欠席者増加への対応の必要性について

- 背景
 - <国の状況・通知等から>
 - ・全国的に見て、小学校長期欠席者増加率>中学校長期欠席者増加率。小学校の増加率が懸念されるとともに、小学校の増加率の抑制が、中学校の増加率抑制にもつながる。
 - ・令和5年3月31日発出の文部科学省初等中等教育局長通知「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策について（通知）」において、校内教育支援センターの設置について触れられており、「学校内に、落ち着いた空間の中で自分にあったペースで学習・生活できる環境があれば、学習の遅れやそれに基づく不安も解消され、早期に学習や進学に関する意欲を回復しやすい効果が期待される」とある。
 - <保護者からの要望等>
 - ・小学校の保護者からの要望。
 - ・議会において、小学校への拡充を求める要望。（令和4年12月定例議会での質疑）
 - <独自に校内フリースクールを設置した小学校の成果>
 - ・子供と保護者の声
 - <子供>「今までは学校に来ることができなかったけど、学校に来れるようになった」
 - <保護者>「教室に入って椅子に座っている姿を見られるなんて、本当に久しぶりで、うれしく思っています。」

4 今後の展望

- ・小学校大規模校を中心として、長期欠席者出現率等を考慮し設置を検討したい
- ・当面の予定：令和6年度4校 令和7年度3校

校内フリースクールF組の成果を踏まえた、小学校における未然防止策について

中学校の校内フリースクールF組

F組の推移

令和2年度：3校
令和3年度：8校
令和4年度：14校
令和5年度：20校

※全中学校設置完了

F組の成果

- 初期対応・自立支援での成果
 - ・現在、市内全中学校のF組を活用している生徒は、約300名。
 - ・生徒一人一人により状況は違うものの、F組があることで学校に登校できる生徒がいる。
 - ・**学校の核となる指導力のある担任とフリースクール支援員の配置**により、「心理的安全性」が生まれ、目標をもって生き生きと学校生活を送る生徒が増えた。
 - ・卒業後、次のステージで活躍する生徒の姿があり、社会的自立に向けて重要な学級となっている。
- 未然防止での成果**
 - ・生徒の変容につながる支援のあり方を見ることによる教員の意識改革→通常学級での支援の変化
- 長期欠席者の新規発生率の抑制**
 - ・全国的に見て長期欠席者が急増している中、本市は増加率の抑制が図られている。



小学校への長期欠席者増加への対応の必要性について

背景

- 全国的に見て、小学校の長期欠席者の増加率> 中学校の長期欠席者の増加率
- 文科省通知「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策について（通知）」において、校内教育支援センターの設置による効果への期待。
- 小学校にF組設置を望む保護者からの要望
- 独自にF組設置を行った小学校の成果
 - 児童の声 「今までは学校に来ることができなかつたけど、学校に来られるようになった。」
 - 保護者の声「教室で楽しく活動する姿を見る事ができて、うれしく思っています。」



今後の展望

- 小学校大規模校を中心に、長期欠席出現率等を考慮し設置を検討したい
- <当面の予定>
 - R6年度：4校
 - R7年度：3校

岡崎市立中学校地域ブロック部活動の進め方「3段階プラン」(岡崎モデル)について

岡崎市教育委員会

これまで半世紀を超えて教師が献身的に取り組んできた部活動は、大きな教育的役割を果たしてきた。日本の貴重なインフラともいえる部活動、そして、岡崎市の中学生11,000人が関わる部活動を地域移行することは、大変な困難が予想される。

そこで、本市では、中学校における部活動の地域移行として、近隣の学校を同じブロックとして市内8つのブロック(資料2-2)に分け、中学校ごとの部活動をブロック単位で行う地域ブロック部活動を、岡崎モデル「3段階プラン」として、以下のように進めていくことにした。

1 地域ブロック部活動の目的

岡崎の子供たちが、将来にわたり、スポーツや文化芸術活動に主体的に関わることができるよう、現在ある部活動を持続発展可能な形にする。その中核となる地域ブロック部活動は、本市が大切にしてきた教育としての部活動の特性を生かす形にすることで、子供の健全育成を図ることを目的とする。

2 地域ブロック部活動の最終形

- ・運営主体として、地域ブロック部活動運営本部(仮称)を設置し、産学官民共同で運営していくものとする。
- ・令和11年度には完全に学校管理下外の活動とし、兼職兼業による教員の参加も可能とする。
- ・令和7年度の新チームからは、在籍校にある部活動だけでなく、岡崎市内の中学校に現存するすべての部活動に参加することが可能となる。
- ・参加する子供は、学校終業後一度帰宅し、各活動場所(学校及び公共施設)へ移動する。その際の移動方法は徒歩や自転車、公共交通機関、保護者の送迎となる。
- ・活動は、最大で1週間のうち平日は2日、2時間までとする。休日は、土日のどちらかで3時間までとする。

3 地域ブロック部活動のメリット

- ・岡崎市内の中学校に現存するすべての部活動への参加が可能となるため、子供は幅広くスポーツや文化芸術活動に親しむことができる。
- ・市内の様々な方が関わることで、市をあげて子供を育成することができる。
- ・企業と連携することにより、専門的な指導をトップアスリートから直接受けることが可能となる。
- ・公共施設や学校施設を効果的に利活用することにより、これまでよりも恵まれた環境の下で活動することができる。

4 地域ブロック部活動「3段階プラン」について

①子供の地域移行（令和5年度～7年度）

- ・比較的設置数の少ない部活動から段階的に地域ブロック部活動へ移行する。
- ・ブロック内に設置されている部活動から選択して入部することができる。

②活動の地域移行（令和8年度～10年度）

- ・活動の拠点を、小中学校だけでなく、公共施設も利用できるようにする。
- ・基本的には学校管理下での活動とするが、一部の部活動を学校管理下外で行えるように様々な条件整備を推進する。
- ・条件整備ができたところから、順次実施をしていく。

③運営の地域移行（令和11年度～）

- ・運営主体を学校から地域へ移行することを考え、活動時間を夜型にしていきたい。
- ・部員や指導者の減少に伴い、ブロック割の数を減らしていく。
- ・条件整備ができたところから、順次実施をしていく。

岡崎市立中学校地域ブロック部活動の進め方について

資料 2-1-1-2

これまで半世紀を超えて教師が献身的に取り組んできた部活動は、大きな教育的役割を果たしてきた。日本の貴重なインフラともいえる部活動、そして、岡崎市の中学生11,000人が関わる部活動を地域移行することは、大きな困難が予想される。そこで、令和5年度からの3年間は、子供の活動の地域移行として、近隣の学校を同じブロックとして市内8つのブロックに分け、中学校ごとの部活動をブロック単位で行う地域ブロック部活動を、岡崎モデル「3段階プラン」の第1段階として進めていく。

岡崎モデル【3段階プラン】

実施計画立案

実施計画立案

子供の活動の地域移行

岡崎市立中学校の地域ブロック部活動への段階的な移行

令和5年度夏

アーチェリー
弓道

令和6年度夏

ソフトボール
ハンドボール
柔道

令和7年度夏

陸上
サッカー
野球
剣道
ソフトテニス
バレーボール
卓球
バスケットボール
吹奏楽
合唱
オーケストラ

- ・比較的设置数の少ない部活動から段階的に地域ブロック部活動へ移行する。
- ・指導は、各校の顧問や部活動指導員が行う。
- ・活動は、原則休日に行う。

第1段階

水泳部は、地域スポーツ活動へ移行する。

活動場所の地域移行

学校管理下外での活動を目指して、様々な条件整備を推進

- ・学校施設活用型
- ・公共施設活用型

検討課題

- ・学校施設活用型では、学校施設の一般開放に向けた設備改修
- ・公共施設活用型では、スポーツ施設や文化芸術施設等の利用について、負担軽減や利用しやすい環境整備
- ・学校開放事業との調整

第2段階

美術部、パソコン部等の文化部の活動は、段階的に社会文化活動に移行できるようする。

運営主体の地域移行

地域ブロック部活動を段階的に外部の運営主体へ移行

- ・岡崎市地域ブロック運営本部《NPO》(仮称)の設置
- ・外部委託業者の選定

検討課題

- ・指導者の確保
- ・指導者の研修
- ・可能な限り低廉な会費の設定(家庭の参加費用の負担軽減)
- ・平日の活動における送迎面の配慮
- ・部活動に準じた活動時間の管理

第3段階

国の方針が変更された場合や子どもや家庭、地域のニーズに大きな変動があった場合には、内容を見直し、必要に応じて修正することとする。

学校管理下内

学校管理下外

R5

R6

R7

R8

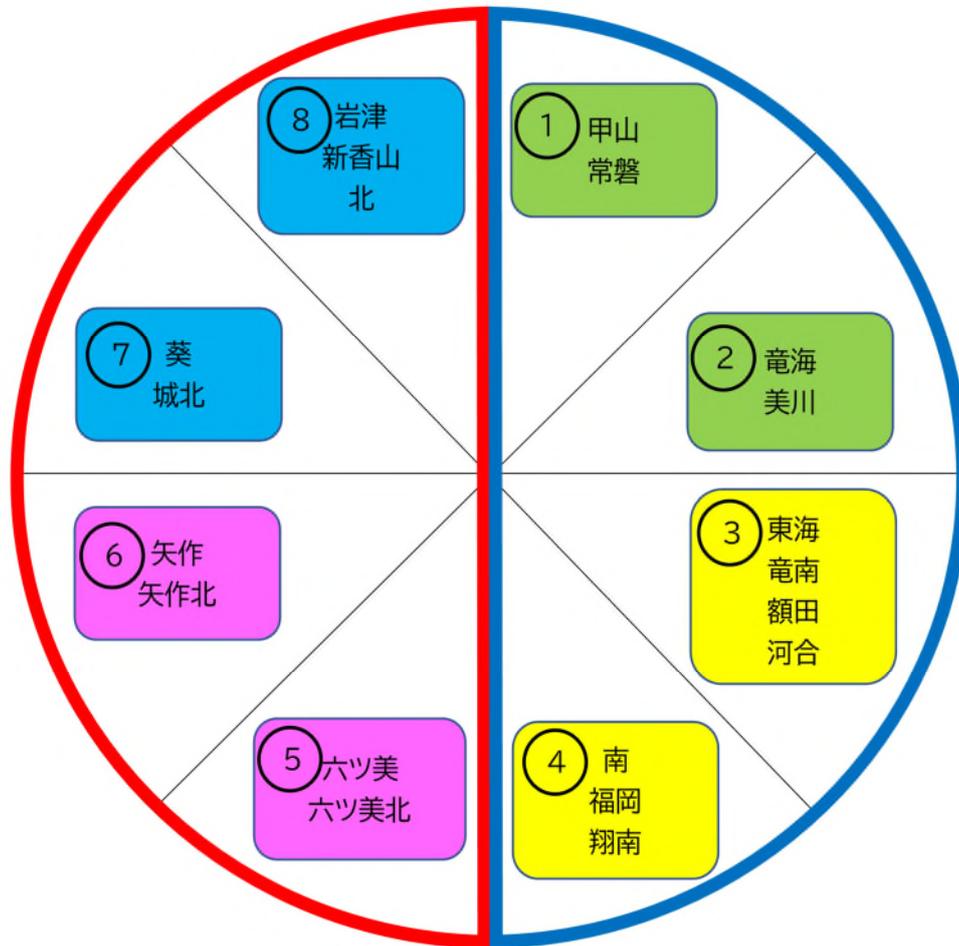
R9

R10

R11以降

岡崎市立中学校地域ブロック部活動の形について

1 地域ブロック部活動の全体図



2 地域ブロック部活動のブロック割

- ・市内 20 校を 8 ブロックに分ける。
- ・ 4 ブロックに分ける場合は、同じ色の数字ブロック同士が結合する。
- ・ 2 ブロックに分ける場合は、赤青の太線の枠内のブロックが結合する。
- ・ 1 ブロックの場合は、市内全中学校を対象とする。

3 部活動ごとのブロック割について

ブロック割	部活動名
8 ブロック	ソフトテニス、陸上、サッカー、剣道、野球 (男) バスケットボール、バレーボール、卓球
4 ブロック	ハンドボール (男)、ソフトボール (女)、吹奏楽
2 ブロック	柔道 (男)、オーケストラ、合唱
1 ブロック	アーチェリー、弓道、柔道 (女)、ハンドボール (女)

(案)

地域ブロック部活動 活動拠点(例:学校施設活用型)

資料 2-3-1

8ブロック	☆…拠点校				女子のみ	剣道		
	陸上	ソフトテニス	サッカー	野球(男)			バスケットボール	バレーボール
A中学校					☆		☆	
B中学校		☆	☆					
C中学校				☆		☆		
ア小学校	☆							
イ小学校								☆

4ブロック	ソフトボール(女)	ハンドボール(男)	吹奏楽
A中学校	公共施設	D中学校	E中学校
B中学校	公共施設	D中学校	E中学校
C中学校	公共施設	D中学校	E中学校

2ブロック	柔道(男)	オーケストラ	合唱
A中学校	公共施設	F中学校	G中学校
B中学校	公共施設	F中学校	G中学校
C中学校	公共施設	F中学校	G中学校

1ブロック	アーチェリー	弓道	柔道(女)	ハンドボール(女)
A中学校	公共施設	公共施設	H中学校	I中学校
B中学校	公共施設	公共施設	H中学校	I中学校
C中学校	公共施設	公共施設	H中学校	I中学校

は資料2-3-2と共通拠点

(案)

地域ブロック部活動 活動拠点(例:公共施設活用型 I)

資料 2-3-2

☆…拠点校

	男女あり			男子のみ		女子のみ	
	陸上	ソフト テニス	サッカー	野球 (男)	バスケット ボール	バレーボール	卓球
8ブロック							
J中学校	公共施設	公共施設	公共施設	公共施設	☆		☆
K中学校	公共施設	公共施設	公共施設	公共施設		☆	☆

4ブロック	ソフトボール (女)	ハンドボール (男)	吹奏楽
J中学校	公共施設	D中学校	E中学校
K中学校	公共施設	D中学校	E中学校

2ブロック	柔道 (男)	オーケストラ	合唱
J中学校	公共施設	F中学校	G中学校
K中学校	公共施設	F中学校	G中学校

1ブロック	アーチェリー	弓道	柔道 (女)	ハンドボール (女)
J中学校	公共施設	公共施設	H中学校	I中学校
K中学校	公共施設	公共施設	H中学校	I中学校

は資料2-3-1と共通拠点



小中学校への電子黒板の導入の現状と今後について

1. 現状

① 導入状況

令和4年度：全市立中学校 20 校のすべての普通教室に電子黒板を整備完了

令和5年度：全市立小学校 47 校の4～6年生のすべての普通教室に電子黒板を整備中
(夏休み中に整備完了予定)

② 活用事例と導入効果

昨年度導入した中学校においては、

- ・ デジタル教科書の利用
- ・ 「書き込み」「保存」機能の活用
- ・ プレゼンテーションの支援
- ・ クラウドでの情報共有
- ・ オンラインセミナーの実施
- ・ iPad の画面ミラーリング

など、授業等における電子黒板の活用が進んでいる。

また、昨年度末に学校を抽出して実施したアンケート調査においても、9割以上の生徒が「授業がわかりやすくなった。」と回答している。

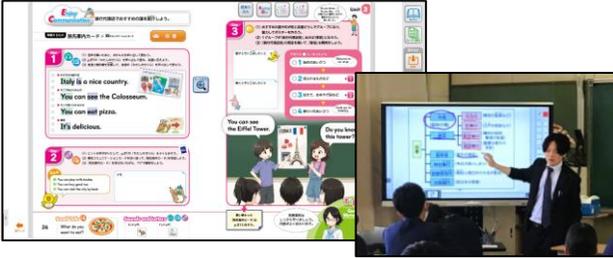
2. 今後の展望

現在、小学校においても iPad 等 ICT 機器の授業での活用が定着しており、中学校と同様の効果が得られると考えられることから、今後小学校1～3年生と、理科室や音楽室等の特別教室についても電子黒板の導入を進めていきたい。

電子黒板の日常的な活用で、授業が変わる

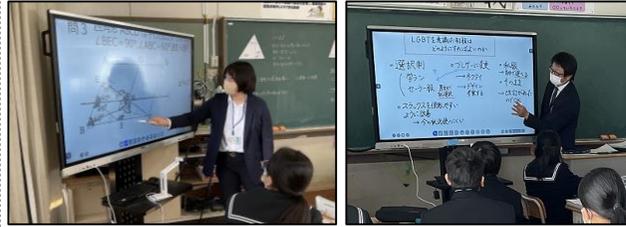
具体的な活用例①

デジタル教科書の利用



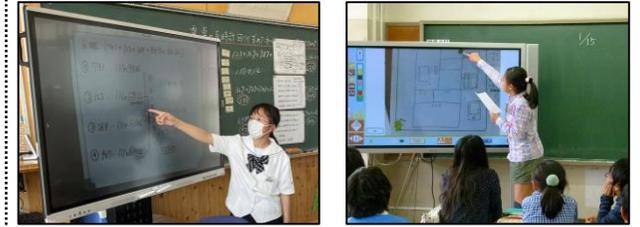
具体的な活用例②

「書き込み」「保存」機能の活用

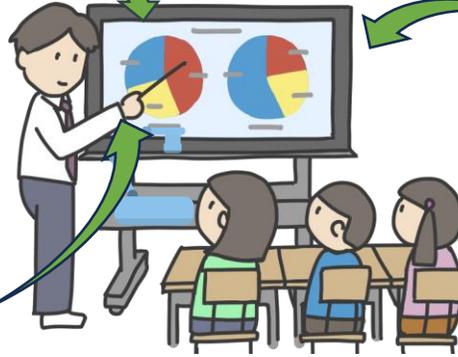


具体的な活用例③

プレゼンテーションの支援



子供たち1人1人の学びを
様々な知識や情報とつなげる



電子黒板は
「学びのインターフェイス」

具体的な活用例④

クラウドでの情報共有



具体的な活用例⑤

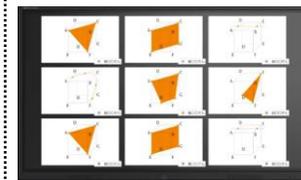
オンライン授業



Webカメラ機能
付き書画カメラ

具体的な活用例⑥

iPadの画面ミラーリング



スクールソーシャルワーカーの中学校区での拠点校型配置について

本年度、岡崎市では、3中学校区（甲山中、北中、六ツ美北中）にスクールソーシャルワーカー（SSW）を拠点校配置している。これまで学校は、子供の非行や長期欠席、家庭での虐待など課題や問題が表面化してからSSWに相談する派遣型で対応してきたが、拠点校型の配置とすることで、課題や問題に対しての未然防止、早期対応につなげることができている。

一方、SSWへの相談件数は大きく増加しており（R3比132%）、迅速かつ丁寧な対応を維持するために増員する必要があると考える。

相談件数の現状

【SSWへの相談件数】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R3	415	366	469	426	330	465	397	454	370	426	458	398	4974
R4	395	427	495	522	460	634	640	585	533	557	711	612	6571

【令和4年度の主な相談内容】※1件の相談で課題、問題が複合的になっているケースが多い
 ・家庭環境に関すること ・発達障害等に関すること ・長期欠席に関すること

拠点校型の成果

昨年度、拠点校型のモデル校として、A中学校にスクールソーシャルワーカーを1名配置した。

<成果事例①>

ADHDの診断を受けているBさんについて、中学入学前に保護者を交えてケース会議を実施。小学生の時の様子をよく知るSSWより、医療情報を基に本人の特性を理解した接し方や声掛けを中学校教職員に助言。現在、Bさんは落ち着いて生活を送ることができている。

<成果事例②>

祖母と暮らしているCさんについて、祖母の支援が必要と判断し、関係機関を交えたケース会議の開催を提案。会議を通して家庭児童課などが家庭に入って支援を行うことができた。SSWは、その後も関係機関と連携をとり、学校や家庭においてCさんとの関わりを継続している。

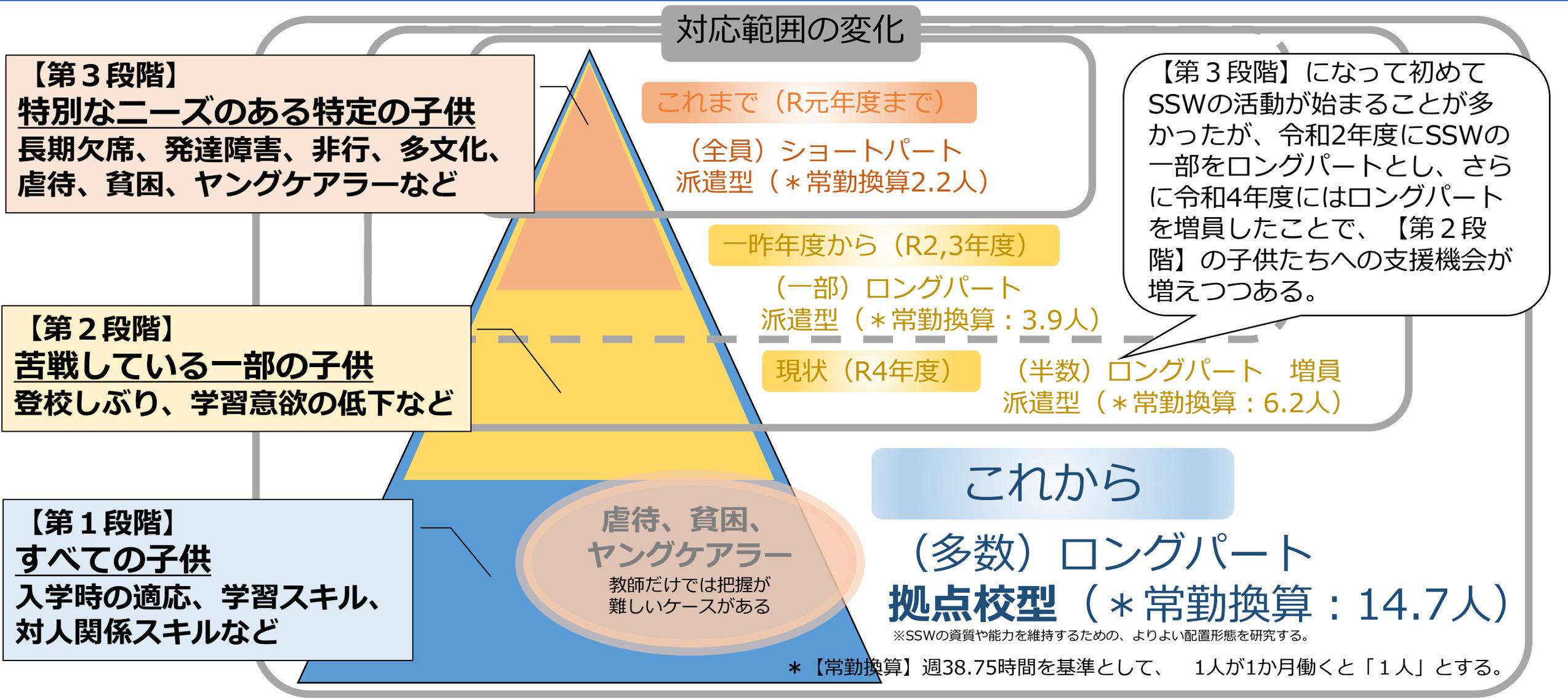
～拠点校型配置のSSW、学校教職員の声～

- ・子供の様子を、日常の学校生活から見取ることができる。
- ・教職員がSSWに気軽に相談できる環境になった。それにより、早期に対応できるよさが生まれた。
- ・中学校区の小学校に勤務することで、心配な子供、保護者を中学入学後も切れ目なく支援できる。また、小中学校で兄弟（姉妹）がそれぞれ在籍している場合でも、実態を早く把握できる。
- ・派遣型より迅速に他機関と連携することができる。

今後の配置計画

- ・中学校区の拠点校型配置の増加 → → → **すべての中学校区に配置し、未然防止の強化へ**
- ・SSWの増員 → → → **相談件数の増加に伴う増員で、丁寧な対応を維持**
 (SSW人数：R3:ロング 3, ショート 4 → R4:ロング 5, ショート 6 → R5:ロング 8, ショート 5 → R6:ロング 10, ショート 5)
- ・増員するSSWを管理・監督 → → → **管理・監督できる立場の職員を配置 迅速な対応の強化**
- ・配置形態の研究 → → → **持続可能なよりよい配置形態を研究し、ニーズに合わせた対応**

スクールソーシャルワーカー（SSW）の現状と今後のイメージ



教師の気づきからSSWへ相談 → SSWの気づきからの支援へ（未然防止の強化）

教師の支援から専門機関による支援 → SSWからつなぐ体制へ（支援の強化） オール岡崎で学校を起点とした支援体制の構築